夕刊
磐城新聞
十二月二十一日發行
（日曜祭日翌日休刊）

萬葉集隨筆
今井白水

下

であるから恐怖を感じ、恐怖を感じたからこそ神秘視したのである。大國主神秘に、大穴牟遲神、葦原色許男神、八千矛神、宇都志國玉神といふ五つのお名前（古事記）があつたことは不思議さを感じなければならぬ

ではかうした信仰は、後世になつて突然生れたものであらうか

萬葉集をみると卷十一に

隱沼の下ゆ戀ふればすべを無み妹が名のりつ忌むべきものを

といふ歌があるが、下句の忌むべきものであつた妹が名を云つてしまつたといふここに、名に對する上代信仰が如實に表れてゐるではないか

たらちねの母がよぶ名を申さめど道行く人を誰と知りてか

といふ歌があるが、この上句の『たらちねの母がよぶ名』といふところに、つきせぬ上代人の名に對する神秘感が藏されてゐる。女の名は自分の女親のみが知つてゐたのであり、名前を知らせることは相手に身をまかせることである。であるから大切なもので、見ず知らずの人なんかに容易に名乘りが出來るものではなかつた。卷一の開卷第一に

籠もよみ籠もち掘串もよみ掘串もちこの岳に菜摘ます兒家聞かな名乘らさねそらみつやまとの國はおしなべて吾こそ居れ敷きなべて吾こそ居れ我こそは告らめ家をも名をも

といふ、雄略天皇の有名の御製歌があるが、是をみても上代の名乘の面影を察することが出來る。かうして名に對して非常に神秘視したればこそ

み空行く名の惜しげくも吾はなし逢はぬ日數多く年の經ぬれば

といふ卷十二の歌や

劒太刀名の惜しけくも吾はなし此の頃の間の戀の繁きに

といふ卷十二のやうな眞劍な歌が生れたのである『名の惜しけくもなし』といふ表現に至つては、上代人の生活神仰を、はつきりと窺ふことが出來る。これを單に『評判が立つ』と釋したので、その結果のみ觀察したもので、その先きがいかにも深いものであるかを知るものではない

それならばどうして、こんなに神秘視したか、これについて次の機會に述べて見度い

武川敎義先生
島田忠夫

武川先生の如きは、敎育家として一世の師表に仰ぐべき人格者。しかも平町にその晩年を盡され、子弟の交を得し者多し。よろしく相計りて、平第一校と商業校に各々一基づつ備ふべきならずや

○大き師を永久につたへむよすがにも胸像つくれ敎へ子どちよ

○世にたかき師のいさをしさ傳ふべく胸像つくる會起さずや

○先生のにこ面うつし眼をうつし胸像欲しと皆思はずや

新年短歌募集

一、新年に因める歌 三首 新妻久滿男選

一、勅題『海上雲遠』一首 高久晩霞選

あこがれ
好間 槇紫陽

上

たゞ遠き日をぞ火をぞ思ひ
はろけくに望も翔けて
哀れなる あゝ若人よ
現世の闘爭あるを

×

憎しみの戀はどよめき
幻に夢のささやき
夕雲とはるか失せにし

×

瑯玕の宮の柱も
瓔珞の垂飾なるも
皆かなしき人手のつきし
汀なるすさびにすぎず

×

憧がれの大き殿堂知
られざる燭影ゆらめき
いと崇高き音?ながる
あゝされどそのかたさ扉
こしへにひらかるゝとな
し

×

心なる遠き望みは
濱の子の すさびの如く
花の燭も 玉の常宮も
ひたよせる 砂邊の波々
死の底へ こぼちては去
る

×

小波にはこぼれ行くは
人の子のはかなき 空想
あこがれの殿堂ぞ
とどろける死のわだつみ
エレジーに あこがれは
消ねつゝ

×

空しきを洗はれし骸
なぎさにて泣くは詩人
影もなきむくろながめつ
あこがれの殿堂は消ねし

×

悲しきは人の世の運命や
あこがれの去るを悼みつ
あまたゝび築かんは殿堂
あまたゝびこぼち去りぬ
とも

（一九三五・一〇・二〇）

スキー
新潟 德島千藏

お山は晴れて ぎんぎら
ぎん
スキーですべろ ツー
〳〵
丘をすべつて行く汽車は
愉快な〳〵なスキー汽車
どこまですべるスキー汽
車
長くつゞいた雪レール
粉雪けたてゝ シュウ
〳〵
父さん汽車は早いなア
僕のスキーは小さいけれ
ど
父さんのあとからついて
行く
山こゑ野こゑ丘さして
たのしい〳〵スキー汽車
ストーブ燃える山小屋は
うれしいスキーの停車場

頌野口女史小名濱校廿五年勤續
珠雲 小野務平

努力誠精操者堅
薰陶二十五經年
旌彰今日榮何大
萬綠叢中一朶妍

12月22日 △遠州三方ヶ原の合戰（元龜三）△東郷平八郎鹿兒島に生る（弘化四）△我國最初の內閣成立（明治一八）△豊間の四家政男に無期を求刑さる（昭和八）

12月23日 △大燈國師入寂（延元二）△新井白石家宣の侍講となる（元祿）六△北清事變媾和成る（明治三三）△玉川對入山の灌漑紛紜圓滿解決△鹿島で悲戀心中（昭和九）

その日〳〵

○新省出しの年賀切手を買つてみたが、圖案の趣味の野暮つたさにあきれて使ふ氣になれなかつた——

講談 黃金魔刄 (35)
高桑義生作 樋口悅也畫

島原屋父子（七）

『おッ、何者ッ』

といふと、大關愼吾は立ちあがつた

三層樓の上層は六疊じきで、三方見はらしになつてゐる。しかし今は東左衞門の前面の戸を一尺ばかりあけてあるほか、あとはかたく閉してあつた。だから愼吾は押ッ取り刀で立つと下に通ずる階段に走り寄つて

そしてもう一度

『何者ッ?』

と叫んで、柱にそうて半身が前に出ようとした時、ヅウンと頭部に一撃を感じた。愼吾の體はもんどり打つて階段を顛落した

『だ、だれだッ?』

東左衞門は脇息をわしづかみにして、上半身をねぢむけた

瞬間シインと靜まつた、冷徹な殺氣が襲つた

白刄のひかり、それから

彼は賊と自分との立場の優劣をはつきりと認識せずにはゐられなかつた

銀平と九兵衞は、こぶしを握りしめて化石のやうになつてゐた

この二人は賴むべきではない。いな、たれ一人賴むべき者はない。ここには誰も來ない。賊が自分の居ることを知つて來たのが、不思議なくらゐだ。この豪膽不敵な賊の前に、もはや何等策の施すすべがないことを、東左衞門は自覺した、

彼はひッつく咽喉につばをのんで

『何用だ?』

といつた

黑衣の影法師。行燈に蔽ひがかけてあるので、黑白相半ばしてぼかされてゐる

東左衞門は脇息をなげつけた。それは向ふの戸をハツシと打つて落ちた

『賊の首領、神道德次郎』

黑衣の人間の威壓するやうな聲である

東左衞門は豫期に反した驚愕でカアッとなつた。なぜなら賊は逃げるべく必死の努力をなしてゐるとしか考へなかつたから、彼はひたすらに取逃がす無念さにいらだつてゐたのだ。ぎやくに自分を襲つて來ようとは、夢にも思ひ及ばなかつたのだ。だのに賊は現在目の前に白刄をひつさげて迫つてゐる。東左衞門は恐怖とふんぬに締めつけられた

『知れてゐる、金か、さもなければ命……』

『ウム、何ほど欲しい』

『根こそぎといふところだが、まあ、一萬兩かな』

『一萬兩?二人では始末がつくまい』

神道德次郎はカラ〳〵と笑つた

『心配無用だ。五十人の手下が用意をして待つてゐる』

東左衞門は悄然とした

『よろしい。申出どほり一萬兩わたしてやらう。俺とこの二人が、金藏に案內しよう。しかし……』

『しかし、何だ?』

『二百人の身內の者が、たとへばわしが、靜まる樣に申しわたしたところで、だまつては居るまい』

『それはわしの方寸にある其方を人質に取り、かれらに指一本ささせないだらう!』

『ウーム』

『では、參らう』

德次郎は自信のある態度でつかつかと進んで、息もせずにゐる東左衞門の右手につかんだ。彼は手がしびれるやうな氣がした

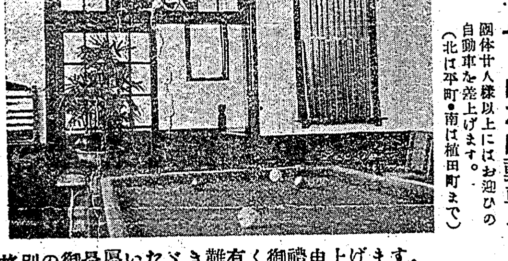
『立て。案內をして貰はう』

東左衞門はいふまゝになるほかはなかつた。彼は箕部錦藏の言葉が、その執らうとした手段が、今にして思ひ知られたのだつた

（俺は殺されるかも知れない!）

といふ觀念が、いなづまのやうに身うちを走つた

新年 忘年 御宴會



…サービス自動車… 團体廿人樣以上にはお迎ひの自動車を差上げます。（北は平町・南は植田町まで）

毎度格別の御贔屓いたゞき難有く御禮申上げます。愈々年末新年の御宴會季節と成りましたので忘年會・新年宴會の御下命賜り度。團体樣には德用な下記弊舘御宴會規定を精々御利用下され度御願申上げます。

松印	3.50	御會席七品付（外果物、御飯香物）藝妓花代、御酒、入浴料、サービス料	共一式
竹印	3.00	御會席六品付（外果物、御飯香物）藝妓花代、御酒、入浴料、サービス料	共一式
梅印	2.50	御會席五品付（外果物、御飯香物）藝妓花代、御酒、入浴料、サービス料	共一式

但十人樣以上ノコト 藝妓ハ五人樣毎ニ一人二時間（松印ニ限リ半玉十人樣ニ一人付）御酒ハ御一人銘酒二本ヅヽノコト

◎お申込みは時節柄なるべく至急下記へ

お問合せは 電話（小名濱）103番 通話料は弊館にて負擔いたします。

小瀧鑛泉 瀧乃湯旅館 電話103 割烹部

本年最終の大奉仕 歳末大賣出し…… 全商品三圓以上…一割引 十二月卅一日迄

迎春の靴は……大塚で

學生靴 五圓より 紳士靴 七圓より 禮式靴 九圓より 各種

型と堅牢を誇る…大塚の靴

つちや會社製品 ゴム長靴七文より十一半迄 革靴の樣な將校ゴム長靴 鋪裝道路に半ゴム長靴

田町の 大塚へ 電話七十七番

…店員入用…有給面談

茶道 裏千家 華道 木生流 小原流 格花 盛花、瓶花 教授いたします……。

稽古日は 茶道…月六回一、六日 華道…毎週土曜日

場所平町字二丁目常陽銀行横 地球堂書店內

裏千家 木生流 小原流 比佐宗弘

難波醫院 內科 小兒科 入院應需 自炊の便あり 平町大町 電話五〇二番（看護婦見習、看護婦募集）醫學博士 難波睦

吸入用酸素 純度99%
度量衡 モノサシ マス ハカリ
計量器 体温器 寒暖計
◎秤ノ取替・錘・糸・綛・復致シマス
關內藥局 電話四〇番

産科 婦人科 花柳病科 午前宅診 午後往診 入院應需
井坂醫院 平町田町（元合津醫院跡）電話五五九番

耳鼻咽喉科專門 平町田町（電六九一）病室完備 自炊ノ便アリ
山內醫院 醫學士 山內亨吉

洋服大特賣 男女用學生冬服豊富に取揃
洋服は高島屋 注文並に既製品 高島屋洋服店 平町二丁目 電話三八六番

公債株式賣買 一般證券業務 電話一一七七 平町三丁目
友部株式店
◎賢明なる諸子は瓦礫の裡より金剛石を
◎優秀株をボロ株中より發見せらるべし

三小學夫々の催しに「子供の祝日」を壽ぐ
記念すべき明後廿三日

平町三小學校長は、明後二十三日の　皇太子殿下御降誕記念日『子供の祝日』に關し昨廿日打合せを行つたが、當日午前九時から奉祝式を行ひ式後各校夫々の趣好で左の如き催物を開く外既報の成績物によつて書方は各學級毎廊下に掲揚、圖畫は各學級一點を中廊下に掲示するの展覽會を開き一般にも公開、綴方はその優秀のもの各學年一點宛を次回刊行の『平の教育』紙上に掲載する事になつた、なほ右優秀成績物に對しては同日各催物の閉會後愛國婦人會平分會から賞狀を授與すると

△第一校　奉祝運動會（紅白毬入　綱引　帽子取　ドッチボール　フットベースボール　ブレーグランドボール　バスケットボール）

△第二校　學藝會（四年以下）お話　唱歌　遊戯等　童話會（五年以上）奉祝歌　童話等

△第三校　各學級毎に奉祝學級會　展覽會　唱歌會等

第三校敷地問題一歩前で纏まる
不祥の收用法撤回

平第三小學校運動場擴張敷地買收問題は既報の如く町側でも斷平收用法を適用すべく肚をきめてゐた處、其後先方も漸次軟化して交渉の坪三圓に承諾する事に決定したので今二十一日午後二時から委員會を開き收用法撤回其他を協議した尚こゝ三、四年の永きに亘る難問題も愈々解決を見たので町では今年度に敷地買收を濟ませ明年度豫算に埋立其他の豫算を計上する筈

國富及國民の所得調査

政府が今月末現在で全國四萬餘の世帯について調べ上げる國富並に國民所得調査で平町の割當て戸數は

物品販賣の卸、小賣　工業　公務自由業者

等五十二戸でこれを明年一月十五日迄調査して町役場に出される事となつてゐる

この調査は國富その內容國全體の所得及資源、國富と國民所得の關係等を知る重要な調べである

平局の年末奉仕
為替貯金其他現金事務　日曜を廢し時間を延長

平郵便局では年末金融の繁忙期に際し公衆の便利を圖る為來二十九日の日曜を廢し同日より大晦日迄三日間為替貯金、保險年金等の窓口現金事務受拂事務の取扱時間を左記の通り延長すると

事務時間

二十九日（日曜）午前九時より午後四時迄

卅日　午前九時より午後六時迄

卅一日　同上

小名濱町合同年賀

小名濱町の新年祝賀名刺交換會は元日午前十一時から小學校に開く

自警の家に被害無し
お互に隙を與ふな！と　けふから犯罪豫防週間

平署では今二十一日から一週間に亘つて實施される犯罪豫防週間に際し既報の如く防止チラシを撒布する外左記標語入りの防犯十訓チラシ數千枚を自動車で管內全般に配布、柴田署長は各劇場、會社、學校等でこれが趣旨普及の講演を行ふ筈である

警戒　お互に隙を與ふな犯罪に自警の家に被害なし

強盜　怖い強盜押入りし時氣轉きかして押へさす

空巢　したか戶締置いたか留守居用心なされよ外出に

侵入盜　寢卷着替へて又一廻り締めた戶口の念調べ

掻拂　置いた自轉車注意の際に足を取られてテクニック

箍拔　油斷なさるな空家を竊に拔ける詐欺師もあるわいな

釣錢詐欺　油斷なさるな釣錢詐欺に釣られて取らるゝ金や品

賭博　博奕やおよしよ火事より怖い火事は田畑を燒きやしない

現場保存　其筋の人の來る迄犯罪現場手をつけしやんすな注意して

援助　捜査資料を進言するは今ぢや社會の人の義務と

平町に遞信醫療所
來春二月開設豫定

仙臺遞信局では既報の如く管內從業員並に家族の福利施設として豫算三萬餘圓を投じ十二ケ所に醫療所を設けるべく準備中だつたが取り敢わず縣廳所在地に設置指定された平局の分は明春二月頃から開設される見込みで場所は大體南町加澤醫院跡が當てられる

醫員、看護婦、事務員、車夫、小使が配されて太陽燈も設備し將來はレントゲン科も設ける豫定で局員の保健上少らず期待されてゐる

感激のボツルは沸る
自營會の肝煎りで　あす轉向座談會
在野法曹界及有志出席

凡そ思想問題なる文字を知る程の者にして知らぬ人の無い山代吉宗氏が飜然として急角度の轉向を試み所謂精鋭主義に據らずして生產の歡喜を把握したと傳へられた時人々は齊しく空谷跫音程に目を瞠つた蓋し常磐一帶に於ける或る方面のヘゲモニーを握つて假借なき彈壓情勢の流轉に應じ千變萬化の鬪爭陣形をとつて行つた而も颯爽たるカンパニヤこそ假令思想的には其の後ろ姿が極めて鮮々たるものであつたにせよ或る意味に於て斷然見逃がせぬ存在であつたからである、他の三名と共に見事な轉向振りを見た平自營會では從來砂漠の如く索然たるものに感せられたであらう人生に、歔り泣き度い樣な法悅を見出した四名の人々に喜んで温い保護の手を伸べた——と云ふ近來の快ニュースが傳へられた折柄前記自營會では更に此間の出來事（?）を心に烙印する為明二十二日の日曜を卜し午後二時から平刑務所支所事務所に於て在野法曹界及地方有志の臨席を求め之に關する座談會を開く事となつた、感激の坩堝は如何に沸る事であらうか！

就職を種に騙る
小名濱の三浦擧げらる

小名濱町上町明神町自動車業野口末松方助手三浦忠雄（二七）は去月二十五日同町下町料理業小野リンより仕事にありついたら支拂ふからと金三圓を騙取、尚同町船主立花雄七から同樣手段で五圓を騙取した事發覺、二十日平署に擧げられた

擔任教諭審査）陳列、成績發表　賞狀授與、午後二時閉會豫定

歳末救濟
寒空に泣く家庭　八十六戸三百餘名
平助成會から救ひの手

平助成會ではさきに愛國婦人會と協力して集めた義捐金百五十圓二十錢を來る二十六、七日頃八十六戶三百十二名の氣の毒な家庭に贈る事となつた、尙才槌小路大角茶舖大角金藏方から贈られた銘茶八十六本を同時に贈ると

拐帶コツクに一年

住居不定無職相馬郡駒嶺村漁民生れ佐藤武雄（三二）が双葉郡浪江町驛前カフェー大安亭山崎龜三郎方に雇はれ中去る五日主人の命で同町常陽銀行出張所から小切手で受取つた三百四十五圓六十四錢を拐帶した事件は今二十一日午前十時から平區で香西判事係り濟田檢事關與公判開廷、懲役一年を求刑された

可愛い娘は居たが借金多くて手が出ぬ
遙々栃木縣から尋ねて來た老農夫
格子先に父性愛の歎き

娘持つ親御さんよ心せよ！きのふの午後五時頃平署に『酌婦になつてゐる娘の居所を捜して下さい』と願出た百姓風の五十男があつた栃木縣安蘇郡葛生町農田中榮市で四年前妻の長患ひから已むなく長女イエ（二三）を前借三十圓で同縣下都賀郡小山町の酌婦に住込ませた處、其後音信不通の裡に各地を轉々したらしく最近平署から當人の身許照會があつて初めて在りかゞ判明したので榮市は娘戀しさの餘り遙々索ねに來たとの事に同署で各方面を調べた結果內郷村大字宮字町田料理業越中家事布川トキ方に住込でゐる事が判つたが、借金何と三百七十六圓に嵩んでゐた、これをきいた榮市は『折角見つけてよかつたと思へば此の大金では……！』とうなだれてしまつたが署員に勵されて取り敢えず可愛娘に會ふ事になりスゴスゴと內郷へ向つた

磐崎災害工事陳情

磐崎村大字白鳥地內大堰並に護岸工事は過般の水害で欠潰したので明年の挿秧季に支障するから急速改修して欲しいと二十一日大和田村長其他が平土木監督所へ陳情した、大堰は藤原川改修の附帶工事として改修される筈で護岸は約三十米位なので同所でもこれが實現促進に努める事となつた

。。。。猪狩氏の美擧　平町四丁目鶴屋猪狩庄平氏は二十日同町役場に行路病舍に收容されてゐる哀れな救護者にと布團三枚を寄附した

娘十八白熱の戀
去つた男を追ひ　思案中平署に保護さる

ゆふべの十一時頃平驛待合室の片隅に物思ひに沈んでゐる娘あるを平署員が調べると、右は山形縣米澤市免許町料理業巴家事秋葉友治方女中菅野ツネ（一八）で十一の時から同家に雇はれる中懸ろとなつた近所の渡邊某（二三）と云ふ職人が最近茨城縣助川町に移つたので男戀しさの餘り前借金三百餘圓ある身も忘れ無斷家出、平驛で下車したもの丶方向が判らず悩んでゐたもので引取りに來た抱主に引渡した

危く凍死
鰯景氣で飲み過ぎ　路上に寢込む

四倉町漁夫千賀四郎（四〇）クンは十八日鰯滿載の乘船が小名濱に入港すると共に鰯景氣に煽られて上陸、その夜方々呑み廻つてベロベロになり同町古湊地內道通路に醉ひつぶれこの寒空に命ふく冷くなる處を巡邏の警官の保護を受け幸に事無きを得た

圖畫科研究
來春の行事二件

縣圖畫教育研究會石城支部では既報の如く來月四日平第二校に第二回の研究會を開くが、なほ二月二十三日には第三區內各校の五年生男女各三名を平第一校に召集、圖畫コンクールを催すことになつた

同日午前九時から鉛筆淡彩靜物寫生（磐中圖畫科

トラックの過失傷死
弔慰金三百圓で免

雙葉郡久の濱町中町三八高木秋次郎、同妻コトの兩名が平町大嶺弁護士を代理人として四倉町四倉合同貨物運輸商會（代表者新妻寅吉）を相手取り平支部に提起した損害賠償請求事件は此程中島裁判長係りの口頭辯論に於て弔慰金の名目で原告に金三百圓を三期に支拂ふ事で和解成立した

去る五月二十六日午後五時半頃久の濱海岸工事場の砂利運搬を請負つた前記運輸商會の運轉手新妻茂の運轉する砂利トラックが同町中町高木屋旅館方傍道路で不注意から高木の長男柴夫（七）を電柱との間に挾み重傷、為に死亡せしめ治療葬儀その他二百五十九圓四十一錢と精神上の慰藉料として各五百圓、計千二百五十九圓四十一錢を請求したものである

冷酷な運轉手
深夜の轢き逃げ
精神病の老人橫死

十九日朝六時頃小名濱町西町地內で自動車に轢かれて死んでゐる老人があるを通行人が發見大騷ぎとなり、屆け出により其筋で調べた結果右は小名濱町定西八二周旋業中村多吉の實父音吉（六〇）と云ふ精神病者、監禁中いつの間にか飛び出し非業の最期を遂げたもので、目下此の轢き逃げ自動車を捜索中

投槍
投書歡迎

。。。。。惡ブローカと貧農。。。。。

◇年の瀨も迫り餘日幾何もなく農村の對外的の清算は新年末に解決すべきもの多し、積年の疲勞と困憊とは一片の不合理な借用證文と化しつゝ幾年か重荷を負ふて來たのだ

◇去る年に年賦償還の契約證を債權者に入れ置いた、一、二回不況の爲め其支辨を實行しなかつた處が最近に到つて人相の物凄い大男三四人ドヤドヤと來つて某氏より

◇權利の讓渡を受けたのだ、過怠金と元利、日當等を支拂へと半脅迫的な態度でオドカした、貧農で何か等法律的智識のない我々は何にが何んだと一驚するのみだ

◇分割支拂すら出來ぬ無能力者が不當な當日や暴利的な談合金は支拂ふ事は出來ぬ、此のゴマの蠅や惡ブロカーを取締る手段はないか、我村でも多數の被害がある、その筋にダニ狩を再斷行する勇氣はないものか

（鹿島村生）

二十二日（小名濱測候所調査）

日出　六、四三　月出後　三、一〇

日沒　四、二八　月沒前　一、二三

滿潮　前二、三五　後〇、二五

干潮　前六、四〇　後八、二五

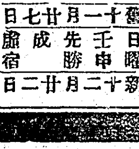
二十三日（冬至）

日出　六、四三　月出後　四、一一

日沒　四、二八　月沒前　二、〇五

滿潮　前三、四〇　後一、〇五

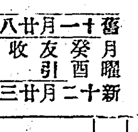
干潮　前八、〇〇　後九、一〇



舊十一月廿七日　日曜　壬申　先勝　成　虛宿　新十二月二十二日

諸判定總本部　東京市本郷區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神誠館

▲一白　急功を願はず本業の守り立てに全力を注げ▲二黑　諸事希望通りに運ぶ愉快なる日旅行吉▲三碧　大望は遂げ難し小成に安すべき日病注意▲四綠　焦慮を愼み萬全の策を講じて發展を謀れ▲五黃　一氣か成に進まんとすればさてつを生ず注意▲六白　本業を堅く守りて輕動せざればとがなく平安▲七赤　七分の成功三分の失敗と覺悟して滿足せよ▲八白　迷ひを捨てゝ怠らず勵むときは功果大なり▲九紫　小利にげんわくされて永遠の計をたつるべし



舊十一月廿八日　月曜　癸酉　友引　收　危宿　新十二月二十三日

▲一白　どんよくあくことなければ終は破めつを招くべし▲二黑　和合圓滿を欠く時は共からくと萬事捩化▲三碧　物事にちうちよせず大英斷を以て進むべし▲四綠　活氣を奮ひ起して堅實處理すれば功あり▲五黃　諸事期待に外れ勝ちなる日文書の往來は吉▲六白　氣運旺盛にて大ていの志望は通達し得る吉日▲七赤　進展力は有れども短慮を戒めざれば大失敗▲八白　はらん多き日本業を守りて平穩を期せよ▲九紫　外に利を求めて內にて之を失ふ如き日注意

特許ドンコ帳簿　諸帳簿　複寫便箋。仕切

魁文堂　電話313番

旅行には!!　素晴しい乘心地の！　三五年式流線型新車を!!!　是非御利用御用命の程を御願申します。

平 二　三井タクシー　電話六八五番

流行ノ下駄ト草履ハ！　ドコヨリ安イ

南町　三井ハキモノ店　電話一八一番

（小僧さん入用）

廣告

松村醫院　院長　松村鐵郎　平町南町電一〇七

父員正儀永らく病氣靜養中の處藥石効無く二十日午前一時二十分死去致し候に付生前辱知諸彥に此段謹告候也

追而葬儀は二十二日午後一時自宅出棺大寶寺に於て佛式により告別式相營み可申候

昭和十年十二月二十日

男　伊坂道雄

親戚　伊坂員衛

總代　宮內喜忠　高野伍助

友人　青沼鋒太郎

總代　櫛田榮太郎

常在院送葬の際は御多忙の折にも不拘遠路御會葬被下且御鄭重なる御香奠を賜はり御芳情誠に難有奉深謝候、略儀甚だ乍失禮右以書中御禮申上げ候　敬具

昭和十年十二月二十一日

平町三丁目

大谷久藏

大谷武雄

外親戚一同